２７	田　原	田原市立田原中学校	ハナイ　リサ 花井　理紗

分科会番号	０８	分科会名	音　楽　教　育

研究題目

楽曲のよさやおもしろさに気づいて楽しみ，音や音楽を新たな視点で捉える生徒の育成
～「ラヴェル作曲『ボレロ』の魅力を伝えよう」の授業実践を通して～

１　はじめに

本学級の生徒は、音楽の学習が好きな子が多く、積極的に授業に取り組んでいる。特に歌唱の学習では、音程の取り方や声の出し方のアドバイスを素直に受け止め、やってみようと努力する姿が見られる。一方で、鑑賞活動には苦手意識を感じている生徒が多い。１学期の「展覧会の絵」の鑑賞活動では、曲の特徴や背景から情景を想像して曲名と結び付けたり、感じた楽曲のよさをグループ内でプレゼンしたりする学習に取り組んだ。情景や作曲者の思いを想像しながら聴くことができる生徒は多いが、なぜそう感じたか、曲のどのような特徴からそう感じたかなど音楽的根拠を示しながら発表できる生徒は多くなかった。また、複数の要素に着目して多面的に音楽のよさをとらえ、音楽の味わいを言葉で表現できている生徒は少なかった。そこで、本題材「ボレロ」の曲の魅力を友達と伝え合ったり共感したりする活動を通して、複数の要素に着目して曲を多面的にとらえる力と感じたことを言葉で伝える力を育みたいと考え、本題材を設定し、研究を進めた。

２　研究の内容

（1）めざす生徒像

・音楽の構造や特徴を捉え，バレエとの関りや曲の背景を知り，楽曲のよさやおもしろさを味わうことができる生徒
・感じたことや考えたことを，音楽的根拠を示しながら表現したり，新しい視点に気づいて考え直したりできる生徒

（2）研究の仮説と手だて

【仮説１】
鑑賞活動において、題材との出会い方を工夫し、自分の考えをじっくりとまとめる時間を確保すれば，感じたことや考えたことを，音楽的根拠を示しながら表現したり，新しい視点に気づき考え直したりできるだろう。
【仮説２】
自分の考えをもとに仲間と関わり合う時間を確保したり、関わり合い方を工夫すれば、音楽的根拠を示しながら言葉で表現し、話し合いや発表の場で新しい視点に気づき、まとめたり伝えたりできるだろう。

＜仮説１　手だて１＞　「ボレロ」に触れる場の設定

・タブレットを使い、「ボレロ」ダイジェスト版を音楽の要素に注目しながら５分間聴く。その後、視覚的に旋律Ａ・Ｂの違いやリズムの特徴に気づけるように、「ボレロ」の旋律の楽譜やリズム譜を提示する。また、

旋律は声に出して歌い、「ボレロ」のリズムは指で打つ。さらに、オーケストラ演奏やバレエ「ボレロ」の映像を視聴する。これらの活動を行うことで、音楽の構造や特徴を捉えることができ、楽曲のよさやおもしろさに気づくことにつながるだろう。

＜仮説１　手だて２＞　「推しポイント」という視点でまとめる時間をつくる

・一通り楽曲を聴いた生徒に対して、「楽曲の魅力を感じた部分（＝推しポイント）はどこか」と教師が問いかける。すると、各々の生徒は自分なりの視点で「ボレロ」のよさをまとめることができるだろう。その際には「旋律」「強弱」「リズム」「構成」「音色」などのおおまかな視点を与えることで、考えがまとめやすくなるように支援する。生徒は、魅力をまとめる中で、楽曲のよさやおもしろさを味わうことができると考える。

＜仮説２　手だて３＞　同じ「推しポイント」のグループで話し合う時間を確保する

・同じ意見をもつ仲間同士で話し合うことで、一人一人の考えをもとにグループとして考えを見いだす。その際には、あいまいな考えにならないように音楽記号に注目したり、繰り返し視聴したりするように助言する。そうすることで、あいまいな考えだった生徒が音楽的根拠を示し合いながら話し合うことにつながると考える。また，同じ班の仲間と考えを交流することで，新しい視点に気づき，自分の考えを見つめ直すこともできるだろう。

＜仮説２　手だて４＞　全体で考えを共有する場を設ける

・班での話し合いの後で、全体で考えを共有する場を設ける。そこでは、それぞれの班から音楽的根拠のある発表が発信される。その後、その発表を聞いた生徒からは、それに対しての質問が出ると予想されるため、発表者は改めて自分の考えを見つめ直して返答をする必要性が出てくる。そうすることで、発表者は自分の考えを改めて整理し、より説得力のある音楽的根拠を示すことができるようになると考える。また、他の班の考えを知ることで新しい視点に気づき、自分の考えを見つめ直すこともできると考える。

３　検証の方法

抽出生徒Ａを選定し、活動の様子や授業記録から生徒Ａの変容を追うことで、仮説と手だての有効性を検証する。

【生徒Ａの実態】

音楽の合唱やリコーダーの授業にはとても意欲的に取り組んでいる。合唱の授業では、手を上下させて音程を取ったり、自ら音程の分からないところを教師に質問したりしている。強弱記号を見て音の曲弱を意識し表現しようと努力できる。合唱コンクールの練習では、全員でクレシェンドがそろった時、自分一人では小さな表現でもみんなの力が合わさることで大きな変化になることに気づき、新たな合唱の楽しさを味わうことができた。リコーダーの授業では、できないところを何度も練習し、美しいポルタート奏法で演奏しようと努力でき、前向きに取り組んでいる。しかし、鑑賞には苦手意識をもっている。曲から感じたことは言えるが、なぜそう感じたか、曲のどのような特徴からそう感じたかなど音楽的根拠を示すのは難しいようである。また、複数の要素に着目して多面的に音楽のよさをとらえ、音楽の味わいを言葉で表現することに難しさを感じている。生徒Ａには、本題材を通して、曲の魅力を友達と伝え合ったり共感したりする活動を

通し、複数の要素に着目して曲を多面的にとらえる力と感じたことを言葉で伝える力を育みたいと考えた。

4　研究の実際と考察

（1）「ボレロ」に触れる場を設定する（手だて１）

「ボレロ」の特徴をつかむことで、音楽の構造や特徴を捉えることができ、楽曲のおもしろさに気づくことにつながるだろうと考え、「ボレロ」に触れる場の設定として以下のことを行った。

①　５分のダイジェスト版の活用

音源を聴く前に音楽の要素について振り返りをし、聴く視点を与えるために「ボレロ」の特徴が音楽の要素の中にあるどれか３つだと伝えた(手だて１)。生徒Aは、３つの特徴のうちの「強弱」「リズム」を答えることができた生徒Aの「先生が教えてくれたので，要素に注目して聴けて」「強弱とリズムはけっこうわかりやすかった」という振り返り【資料①】の記述からは，ただ漠然と音楽を聴いて特徴を考えるのではなく，聴くポイントを絞って音楽の特徴を捉えていたことがわかる。よって，事前に曲の特徴が音楽の要素の中にある３つだと知らせたことは，　音楽の特徴を捉えることに有効であったといえる。

【資料①】

生徒Ａの振り返り
「ボレロ」の特徴は、音楽の要素の中にある３つと先生が教えてくれたので、要素に注目して聴けて、２つは自分で分かった。「強弱」と「リズム」はけっこう分かりやすかった。

②　参考となる楽譜を提示し、ボレロのリズムを打ったり旋律を歌ったりする活動を取り入れる

次に「ボレロ」の特徴について気づいたことを出させたところ、「強弱」「リズム」「旋律」というキーワードが出てきた。そこて、一つずつキーワードについて確認の時間を設けた。

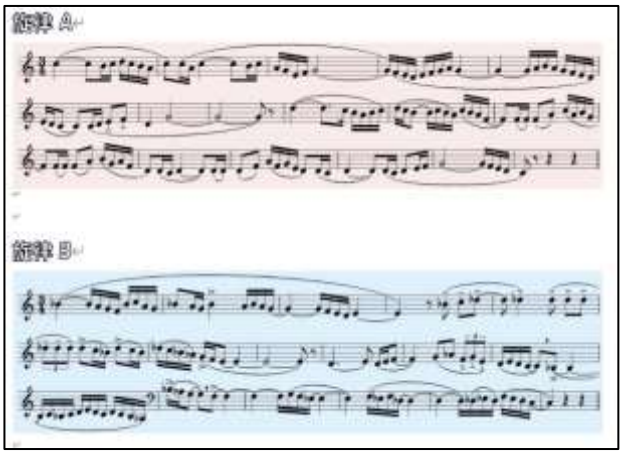
「強弱」については、まずは音源のみで行った。スピーカーの音量を変えずに、初め・中・終わりを聴き比べることで音の大きさを聴き比べた。どうだったか生徒Aに聞くと、「確かに一度も弱くなることなくだんだん大きくなっていた」と答えた。「強弱」は生徒にとって分かりやすいようで、生徒Aをはじめとする多くの生徒が「わかった」と反応していた。

【資料②】

「リズム」は楽譜を提示し、実際に打つ時間を設けることで、ボレロのリズムを体感した(手だて１)。【資料②】は人差し指で机を打った楽譜である。実際の小太鼓の奏法は左右がある程度決まっているが、今日はリズムのみに注目して行った。リズムがうまく読めない生徒Ａには「三連符が出てきたら『タタタ』となる」と伝え、みんなで合わせて打つ時には、教師が速度に合わせて楽譜を手で追って行った。活動後，生徒Ａは「意外と打てたけど，聴いているより打つのが難しかった。これを１５分間もずっと演奏しているなんて，すごい曲だ」と感想を述べた。これ（前文下線部）より，生徒Ａはボレロのリズムを体感することで，音楽の構造や特徴を捉えていたといえる。

「旋律」については、楽譜を提示し旋律Ａと旋律Ｂを歌うことで旋律の雰囲気の違いを感じとった(手だて１)。【資料③】旋律を歌ってみた生徒の感想には、「旋律Ａはさわやかな感じがするが、旋律Ｂは♭がたくさん使ってあって、なんだか暗いような感じがする。」「旋律Ｂの終わりはすごく音が低くなる」というものがあり、生徒Ａも「旋律Ｂは♭がたくさん使われていて、怪しい感じがする。」と発言していた。教師が「どんなところが怪しい感じがするのか」と問い返すと、「旋律Ａに比べると♭がたくさん使われていて短調っぽい感じに聴こえるところと、最後は音がだんだんと低くなっていくところ」と答えた。この発言から、旋律を歌う活動を取り入れたことで、生徒Ａはそれぞれの旋律の特徴を捉えられたといえる。

【資料③】



③　「ボレロ」のオーケストラ演奏されている映像やバレエ「ボレロ」の映像の活用

次に、１５分間のオーケストラ演奏を視聴した(手だて１)。演奏している楽器がクローズアップされる場面で、楽器の名前と分類や特徴を紹介した。生徒Ａの振り返りには「強弱は一つの楽器だけで強くしているのではなく、多くの楽器が合わさって音が強くなっている」と記述していた。楽器の音色を感じられるとともに、演奏している楽器や人数の増加を確認しながら、音色や強弱の変化を感じ取ることができたといえる。

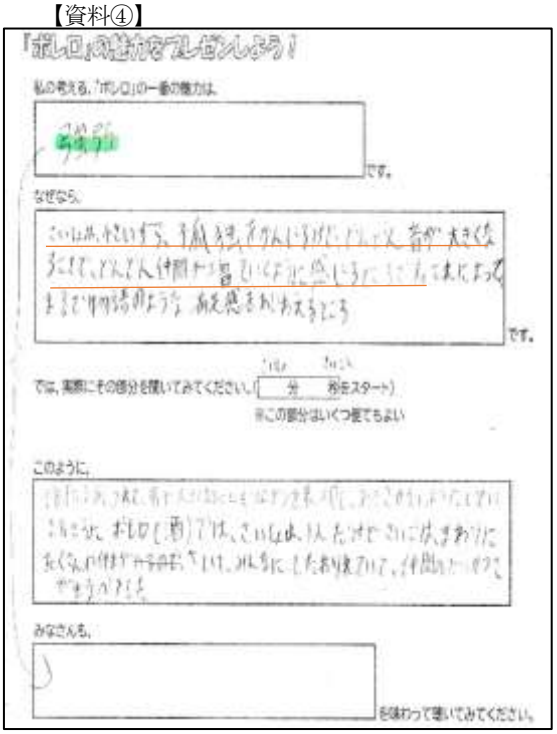
さらに、バレエ「ボレロ」の映像を断片的に視聴する活動を通して、バレエとの関わりや曲の背景について紹介した(手だて１)。生徒Ａは「ボレロは単なる音楽と考えていたけど，バレエを踊るための音楽として聴くとまた印象が違っておもしろい」と感想を述べていた。生徒Ａを含め多くの生徒が「ボレロ」とバレエのつながりに関心を示しており，映像を観る場を設定したことは，楽曲への関心が深まり有効であったといえる。

以上①～③から，手だて１がボレロの構造や特徴をつかみやすくすることにつながり，楽曲のよさやおもしろさを味わうきっかけになっていたといえる。

（2）「推しポイント」という視点でまとめる時間をつくる（手だて２）

生徒Ａは「強弱」に着目し，始め・中・終わりを部分的に聴いたり，演奏している映像を繰り返し視聴したりしていた。生徒Ａはワークシート【資料④】に，「さいしょは小さいから，孤独をかんじるけど，どんどん音が大きくなることで，どんどん仲間が増えていくように感じるところです」と記述した。「小さいから孤独」「大きくなる」から「仲間が増えて」という部分からは，音の「強弱」に着目することで，音の大きさと人の数を関連付けてイメージしたようすがわかり，生徒Ａが自分なりに分析して音楽の特徴を表現した姿といえる。さらに，生徒Ａは「何度も見たり聴いたりしていると，新しい発見がどんどんあった。調べるほどに奥が深くておもしろかったです」と振り返っていた。以上より，「推しポイント」という視点でまとめる時間を設けたことは，生徒Ａが音楽の特徴を捉えたり，おもしろさを味わったりすることにつながっており，手だて２は有効であったといえる。

【資料④】


『ボレロ』の魅力をプレゼンしよう！

私の考える『ボレロ』の一番の魅力は、

強弱

です。

なぜなら、

こいしさ、小さいから、孤独をかんじるけど、どんどん音が大きくなることで、どんどん仲間が増えていくように感じるところです。まるで物語のような、満足感を味わえるところ

です。

では、実際にその部分を聞いてみてください。（　分　秒をスタート）

※この部分はいくつ使ってもよい

このように、

みなさんも、

を味わって聴いてみてください。

（3）同じ「推しポイント」のグループで話し合う時間を確保する（手だて３）

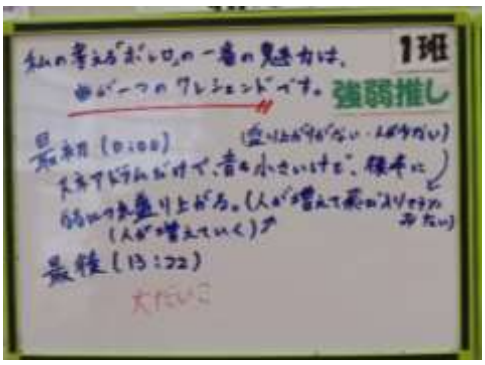
生徒Ａは「僕は『強弱』推しです。最初は小さいから孤独を感じるけど，どんどん音が大きくなることで仲間が増えていくように感じます。これによって物語のような満足感を味わえるところが『ボレロ』の魅力です」とワークシートに記述し【資料⑤】，仲間に自分の意見を伝えようとしていた。この記述からは，生徒Ａが話し合いを前に，自分の考えてきたことを，音楽的根拠をもとにまとめていたといえる。

また，その後の話し合いで，生徒Ａは自分の考え【資料⑤】を班の仲間に伝えた。その際には，音源の最初と最後の部分を流し，さらに「酒場での『ボレロ』は，最初は一人だけど，最後はまわりにたくさんの仲間がいて，みんなに慕われていて仲間の大切さを感じました」と伝えていた。それに対して仲間の生徒Ｂは「強弱は，音自体も大きくなるけど，楽器の数による違いもあるんじゃないか」と意見を述べた。すると生徒Ａは「どんな楽器を使っていても音の強弱は，楽譜に沿って表現していると思う。ただ，楽器の数が増えることは，いろいろな種類の音が混ざるから，いろいろな人が増える感じがするね」と意見を述べた。ここから，生徒Ａが楽譜を意識して意見を述べており，音楽的根拠を示していたことがわかる。また，「音が混ざるから，いろいろな人が増える」という発言からは，「音の大きさ＝人数の多さ」と捉えていた生徒Ａが，「楽器の数＝人数の数」という視点で考えだした姿である。以上のことから，同じ「推しポイント」のグループで話し合う時間を設けたことは，音楽的根拠を示しながら表現することや，新しい視点に気づくきっかけになっており，手だて３は有効であったといえる。

（4）全体で考えを共有する場を設ける（手だて４）

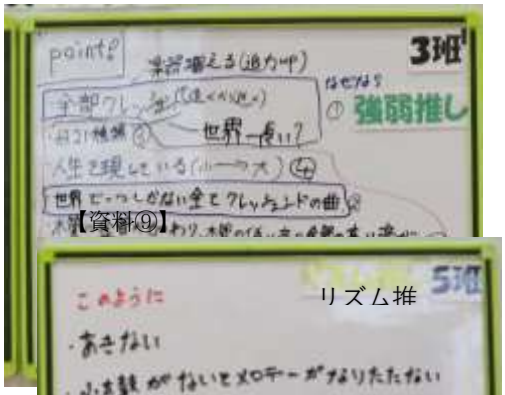
班での話し合いの後で、全体で考えを共有する場を設けた（手だて４）。そこでは、それぞれの班から音楽的根拠のある発表が発信された。生徒Ａの班は、「『ボレロ』の一番の魅力は曲が一つのクレシェンドに聴こえるところ。初めとはシーンという感じだが、最後にむけてすごく盛り上がっている。例えると飛び入り参加のマラソンのよう」と発表した【資料⑥】。すると、その発表に対して「どの楽器が一番盛り上がっていると思いますか」という質問が出た。それに対して生徒Ａが「最後に入ってくる大太鼓です。一番盛り上がったところで最後に入ってくるので一番この曲を盛り上げていると思った」と答えた。

【資料⑥】

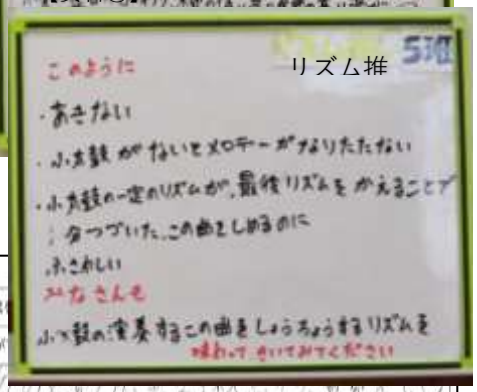


また、同じ「強弱」推しの他のグループは、「だんだんと楽器が増えて盛り上がっていくところが、人の人生を表している」と発表していた【資料⑦】。この発表の後の質問では生徒Ａが「『人生を表している』のは音がどんどん大きくなっているところで表しているのか、楽器がどんどん増えていくところで表しているのか、それともその両方なのか、どっちだと思いましたか」と質問をした。この発言は、今まで音楽の要素とそれによってどう感じるかをつなげること自体難しいと感じていた生徒Ａが、「音の大きさ」や「楽器の数」に注目し、「人生を表している」部分の音楽的根拠に疑問を感じていた姿である。このことから、生徒Ａがより説得力のある音楽的根拠を示すことができるようになったといえる。さらに、教師が「もし、これが人生だとするならば、この人はどんな人生だったんだろうね」と全体に問いかけると、生徒Ａを含めた多くの生徒が「確かに！」と述べ、一人の生徒が、「最後は老衰とかで静かに死んでいくのではなく、戦争で戦って死んだみたいな感じで勇ましい最後だと思う」と答えた。この発言は、『ボレロ』の最後の終わり方から想像しているのがわかり、生徒Ａもその意見には深くうなずいていた。

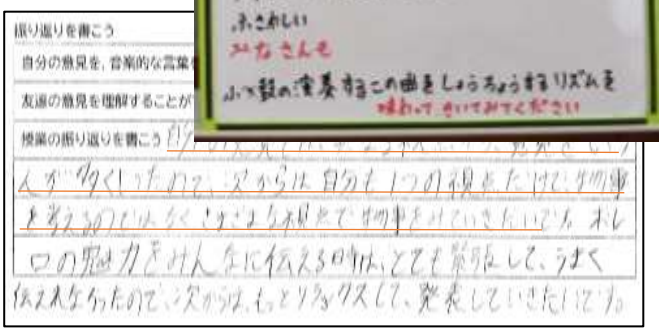
【資料⑦】



【資料⑨】



【資料⑧】



この時間の生徒Ａの振り返りを見ると「自分の意見とは異なる視点から意見を言う人が多くいたので、次からは自分も１つの視点だけで物事を考えるのではなくさまざまな視点で物事をみていきたい」と記述していた【資料⑧】。「具体的に何が心に残ったか」と教師が生徒Ａに聞いたところ、「友達の『リズム推し』にもなるほどと思った【資料⑨】。ずっと同じリズムを演奏してきて、最後のリズムだけを変えることで、１５分間を締めくくるのにふさわしい最後になっているというところ。今まで『強弱』にしか注目していなかったけど、『リズム』も魅力の一つだとわかった」と話してくれた。このことから、他の班の考えを知ることで生徒Ａが新しい視点にも気づけていたといえる。

5　研究の成果と今後の課題

（1）研究の成果

本題材を通して，生徒Ａは，ボレロの特徴を捉え，バレエとの関りや曲の背景を認識することで楽曲のよさやおもしろさを味わうことができた。これは，「ボレロ」に触れる場を設定したり（手だて１），「推しポイント」という視点でまとめる時間を確保したり（手だて２）したことが有効に働いた姿である。よって仮説１は妥当といえる。また，生徒Aは，自分の考えた「推しポイント」をもとにして仲間と関わる中で，音楽的根拠を示しながら自分の考えを見つめ直したり，新しい視点に気づいたりすることができていた。これは，同じ「推しポイント」のグループで話し合ったり（手だて３），全体で考えを共有したり（手だて４）したことが有効に働いた姿である。よって仮説２は妥当といえる。

以上のように，目ざす生徒の姿が実現でき，楽曲のよさやおもしろさに気づいて楽しみ，音や音楽を新たな視点で捉える生徒を育成できたことが，本研究の成果といえる。

（2）今後の課題

・生徒が言葉にしたくなる声かけが必要である。「なぜそう感じたか」ではなく、「曲のどこからそう感じたか」と声掛けした方が、生徒が曲のどこの部分からご指導いただいた。確かに、その方がピンポイントで生徒が答えやすいと考えた。

6　終わりに

音や音楽を新たな視点でとらえられるようになった生徒の感性を、今後はさらに歌唱への生かしていきたい。３年生の最終目標は、卒業記念合唱である。高まった感性を歌唱に生かし、成功させることで、生涯にわたって音楽を楽しめるように授業を進めていきたい。